

2014年12月 ほんいろいろ 「ひつじ」のほん

| 書名 | 著者 | 出版社 | 請求記号 | 内容 |
|---------------------------|---------------------------------------|----------|--------|--|
| そだててあそぼう28 ヒツジの絵本 | むとう こうじ／へん スズキ コージ／え | 農山漁村文化協会 | 645 | ヒツジのこと、どれくらい知ってるかな？ヒツジの毛は、セーターやコートに使われたり、フェルトという布は、モンゴルやトルコの遊牧民たちの運べる家になっている。もちろん肉はおいしく料理して食べることができるよね。ヒツジは「衣食住」ぜんぶを提供してくれるんです。この本を読んだら、ヒツジ飼いにだってなれちゃうよ。 |
| ペレのあたらしいふく | エルサ・ベスコフ／さく・え おのぞ ゆりこ／やく | 福音館書店 | エホン／ヘ | ペレはこひつじをいっぴきかかっていました。ペレもこひつじもおおきくなりました。あるひ、ペレははさみをもちだし、こひつじのけを、みんなかりとりました。ペレがこひつじのけをつかい、なにをするつもりかわかりますか？それはちいさくなってしまったふくのかわりに、あたらしいふくをつくらうとしたのです。 |
| おばあちゃんのひみつのあくしゅ | ケイト・クライス／文 M・サラ・クライス／絵 福本 友美子／訳 | 徳間書店 | エホン／ク | ラリーはおばあちゃんがすきではありません。でも、おばあちゃんはラリーのてを3かいにぎって、だいきだよ、というひみつのあくしゅをしようといひます。ラリーはそれがいやでしたが、あるあらしのあと、おばあちゃんがたくさんはたらいで、いろいろなおてつだいをするのを見て、ラリーのきもちはかわっていきます。 |
| ヒツジのおやこのおくりもの | 谷 真介／文 赤坂 三好／絵 | 佼成出版社 | エホン／ア | むかしの中国のおはなしです。甘やかされてそだった五さいの男の子は自分勝手に、わがままほうだいです。こまりはたおかあさんは、おじいさんのところへそうだんにいきました。ある日、おじいさんは、ヒツジのおやこをつれて家にやってきました。男の子がヒツジのせわをするうちに、やさしい子へと変わっていきました。 |
| まりーちゃんとひつじ | フランソワーズ／文・絵 与田 準一／訳 | 岩波書店 | エホン／フ | まりーちゃんはひつじのぱたぽんにはなしかけます。「おまえはいつかこどもを一ぴきうむでしょう。そしたらその毛をうって、すきなものがなんでもかえるわね。」まりーちゃんはほしいものがいっぱい。二ひき、三ひきとこどものかずがふえたら…さて、こどもはなんびきできたかな？「まりーちゃんのはる」のおはなしもあるよ。 |
| ほーら、大きくなったでしょ ひつじ | ゴードン・クレイトン／写真 山口 文生／訳 | 評論社 | 489.8 | ぼくともうとは、うまれて4じかんのひつじ。めもみえるしみもきこえる。たてるけどまだふらふらしている。1日たつて、1しゅうかん、4しゅうかん、8しゅうかん、10しゅうかん、12しゅうかんたつて、ぼくともうとはママとあんまりちがわないうおおきさに。いっぱいぼくそうをたべて、もうすぐおとなになります。 |
| アローハンと羊 —モンゴルの雲の物語— | 興 安／作 蓮見 浩雄／文・解説 | こぐま社 | エホン／ヒ | おさない娘アローハンと家族は、羊のむれをつれて、草原を移動していました。ある日、アローハンは、移動中にこのこされた子羊をホンゴルと名づけ、大切にそだてていました。ときはたち、アローハンは結婚し、夫とホンゴルとあわせにくらしていました。ところが、ある春の晩、大ふぶきが一家のすむ草原におそいかかったのです。 |
| ゆうかんなひつじかい | デビ・グリオリ／さく 山口 文生／やく | 評論社 | エホン／ク | サムが、パパとぼくよう犬のベスと牧場から帰ろうとしていたとき、雪がふりはじめました。ヒツジの数をかぞえていると、どんどん雲があつまってきて、つめたい風がふきあれてきました。ところがベスが見あたりません！家に帰ってからも、サムはベスが心配でねむることができませんでした。ベスはふぶきの中、どうしていたでしょう？ |
| こひつじクロ | エリザベス・ショー／作・絵 ゆり よう子／訳 | 岩崎書店 | 9-0／シヨ | ある山のむこうに、ひつじかいのおじいさんがたくさんのひつじと、犬のポロとすんでいました。犬のポロはしっかりものでしたが、気に入らないひつじがいました。それは、まっしろなひつじたちのなかで、一ぴきだけいる、くろくて小さなひつじのクロです。クロもじぶんだけがくろいいろをしているのが、いやでした。 |
| ぼくの羊をさがして | ヴァレリー・ハブズ／著 片岡 しのぶ／訳 | あすなる書房 | 9-0／ハフ | ぼくは牧羊犬のボーダーコリー。名前はジャック。でも長い間放浪の旅をしたからね。いろんな人に出て、いろんな名前と呼ばれたよ。生きていだけなら、放浪の旅をしなくても生きていけた。でも、ぼくは牧羊犬だ。羊を追うのが仕事だ。ぼくは、ぼくの羊をさがしている。それが、ぼくが旅を続ける理由なんだ。 |
| チクチクさして作る はじめての羊毛マスコット | せと よしみ／作 | 学研教育出版 | 594 | ふわふわの羊毛でかわいいマスコットをつくってみよう。まず、ニードルという針とフェルティングマットとフェルティングカップを準備してね。フェルティングカップのなかに羊毛をいれニードルでちくちくさすと羊毛がかたくまとまってボールのかたちになるよ。耳、目、鼻、口をつけてくまさんのかおのできあがり。 |
| シートン動物記 野生のヒツジ クラッグ | アーネスト・トンプソン・シートン／文・絵 今泉 吉晴／訳・解説 | 童心社 | 482 | クラッグは、北アメリカのクートネー地方にすむ最大の角をもつオオツノヒツジです。偉大な角を持つクラッグは、生きる知恵と技を仲間に伝え、安全な岩山で群れを繁栄させたすばらしいリーダーでした。しかし、その偉大な角は、トロフィー（頭のはく製）を手に入れた人間の欲望の的となり、宿命の獵師スコッティが執念深くクラッグを追いかけけるのです。 |